

## 臨床医学概論

責任者・コーディネーター	臨床医化学分野 那谷 耕司 教授 臨床医化学分野 大橋 一晶 准教授		
担当講座・学科(分野)	内科学講座血液腫瘍内科分野、内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野、耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座、産婦人科学講座、脳神経外科学講座、小児科学講座、臨床検査医学講座、放射線腫瘍学科、緩和医療学科、補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野、歯科保存学講座歯周療法学分野、情報科学科医用工学分野、臨床医化学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 24 時間
期 間	通期		
単位数	2 単位		

### ・学修方針（講義概要等）

6年制薬剤師教育においては、医療現場で活躍する薬剤師を育てる医療薬学が重視されている。「臨床医学概論」では、主に岩手医科大学医学部・歯学部教員らによる臨床医学の講義により、医療現場での「診療」について学び、医療現場で必要になる知識や技能の習得を目指す。また現在の医学、医療が直面している問題点とその解決法についての理解を深める。

### ・教育成果（アウトカム）

本講義では、主に医療現場で働く岩手医科大学附属病院の医師・歯科医師らの解説により、様々な分野における主要な疾患についての病因、検査、診断、治療方針などを学ぶことで、良質で安全な医療を実践するために臨床薬剤師として必要な基本的な医学知識を習得できる。また、薬剤師としてチーム医療に携わる心構え、コミュニケーション法についても理解が深まる。  
(ディプロマ・ポリシー：2, 4, 7, 8, 9)

### ・到達目標（SBO）

1. 臨床医学の基本概念を学び医療のしくみを知る。(☆)
2. 医療に求められる技能、態度、倫理、安全性を理解できる。(☆)
3. 現代医療の現状と役割について理解できる。(☆)
4. 体の仕組みを学び、病気が患者に及ぼす影響について概説できる。(☆)
5. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる(589)。
6. 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(581)。
7. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(582)。
8. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(583)。
9. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(584)。
10. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(585)。
11. 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(586)。

12. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる(587)。
13. 循環器系、脳神経系、女性生殖系系、皮膚疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。(☆)
14. 頭頸部、小児、口腔の疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。(☆)
15. 糖尿病の症状と最先端の治療について理解し、糖尿病治療において薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
16. 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎等の主要な内分泌疾患の症状と最先端の治療について理解し、内分泌疾患の治療において薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
17. 診察から治療までの流れを理解し、その中で薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
18. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる(714)。
19. 放射線腫瘍学について概説できる。(☆)
20. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる(728)。
21. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる(729)。
22. トランスレーショナルリサーチについて概説できる。(☆)
23. 法医学、法科学において薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
24. 現代医学・医療が直面している問題点を理解できる。(☆)
25. 医師、歯科医師の視点から疾患を考えることができる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/10	月	4	臨床医化学分野	菅原 明 非常勤講師	<p>診断と治療1(内分泌疾患)(☆)</p> <p>講師：東北大学大学院医学系研究科分子内分分泌学分野教授</p> <p>1. 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎等の主要な内分泌疾患の症状と最先端の治療について理解し、内分泌疾患の治療において薬剤師が果たす役割について概説できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
4/18	火	3	産婦人科学講座	庄子 忠宏 特任准教授	<p>診断と治療2(産科・婦人科疾患)(☆)</p> <p>1. 女性生殖器疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>

4/20	木	4	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	<p>診断と治療 3 (緩和ケア)</p> <p>1. 緩和ケアの概念と基本的な治療・ケアを説明できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
4/27	木	4	脳神経外科学講座	小笠原 邦昭 教授	<p>診断と治療 4 (脳神経系疾患) (☆)</p> <p>1. 脳神経系疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
5/11	木	4	耳鼻咽喉科 頭頸部外科学講座	志賀 清人 教授	<p>診断と治療 5 (頭頸部疾患) (☆)</p> <p>1. 頭頸部疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
5/16	火	4	小児科学講座	松本 敦 助教	<p>診断と治療 6 (小児疾患) (☆)</p> <p>1. 小児の疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
5/17	水	4	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣 泰 教授	<p>診断と治療 7 (糖尿病) (☆)</p> <p>1. 糖尿病の症状と最先端の治療について理解し、糖尿病治療において薬剤師が果たす役割について概説できる。</p>

					<p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
6/5	月	4	内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	<p>診断と治療 8 (がん薬物療法学)</p> <p>1. 血液悪性疾患および種々の固形がんに対する薬物療法の実際について説明できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
6/12	月	4	臨床医化学分野	赤坂 俊英 非常勤講師	<p>診断と治療 9 (皮膚疾患)</p> <p>代表的皮膚疾患を紹介するとともに、その薬物治療法、特に外用治療について講義する。</p> <p>講師：岩手医科大学名誉教授</p> <p>1. 皮膚疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
6/22	木	4	情報科学科 医用工学分野	高橋 史朗 教授	<p>トランスレーショナルリサーチ (☆)</p> <p>1. 現代医療の現状と役割について理解できる。</p> <p>2. トランスレーショナルリサーチについて概説できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
8/21	月	2	歯科保存学講座 歯周療法学分野	八重柏 隆 教授	<p>診断と治療 10 (歯周病) (☆)</p>

					<p>1. 口腔疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
8/28	月	2	補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野	今 一裕 准教授	<p>診断と治療 11（口腔疾患）（☆）</p> <p>1. 口腔疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列挙できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
9/4	月	2	臨床医化学分野	橋谷田 真樹 非常勤講師	<p>薬剤師と法医学（☆）</p> <p>講師：関西医科大学医学部法医学講座准教授</p> <p>1. 法医学、法科学において薬剤師が果たす役割について概説できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
10/6	金	4	放射線腫瘍学科	有賀 久哲 教授	<p>診断と治療 12（放射線腫瘍学）（☆）</p> <p>1. 放射線腫瘍学について概説できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。</p> <p>事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。</p>
10/10	火	3	臨床検査医学講座	諏訪部 章 教授	<p>臨床検査法概論 1</p> <p>1. 代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾患を挙げる事ができる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p>

					事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。 事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。
10/10	火	4	臨床検査医学講座	諏訪部 章 教授	臨床検査法概論 2 1. 代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾患を挙げる事ができる。 【双方向授業：コメントペーパー】 事前学修：予定されている講義内容をシラバスで確認し、関連するこれまでの講義の内容を復習しておく。 事後学修：講義の内容について、レジメおよびコメントペーパーを参考に振り返ってみる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズⅡ 6 「医療薬学Ⅰ～Ⅳ」	日本薬学会 編	東京化学同人	2015～ 2017
参	薬物治療学 改訂第11版	吉尾 隆 他編	南山堂	2022

・成績評価方法

各講義終了後に提出させる「講義の概要」の提出状況（10%）およびレポート（90%）から総合的に評価する。

・特記事項・その他

全講義終了後に、レポートを提出させる。  
各講義終了後に提出させる「講義の概要」および最終的に提出されたレポートについては、教員からのコメントを記入して返却する。  
予習・復習のポイント：講義内容については、できるだけその日のうちに復習しておく。予習については、予定されている講義内容をシラバスで確認しておくこと。機能形態学、細胞生物学、生化学、薬理学、医療薬学などで学習した内容について再確認しておく、理解の助けになる。  
授業に対する事前学修には30分、事後学修には90分を要する。更に、授業全体の総復習に16時間、レポートの作成に10時間程度の時間を確保する必要がある。